

# 生活単元学習の授業づくりに関する研究

—各教科等とのつながりのある単元設定から学習評価までの考え方—

特別支援教育室 水野由美 山田亜紀 和田 学  
越智宣和 玉乃井美穂  
研究協力者 愛媛大学大学院教育学研究科教授 櫻木暢子

## 1 研究の目的

特別支援学校学習指導要領では、指導と評価の一体化の必要性が明確に示された。「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価が重要な役割を担うことが示されており、授業改善の一連の過程に学習評価を適切に位置付けることが求められている。また、学習指導要領解説各教科等編では、「各教科等を合わせた指導」においても、各教科等の目標や内容を取り扱い、それに準拠した評価の実施を目指すとの方針が、明確に示された。

「各教科等を合わせた指導」の中でも生活単元学習は、知的障がいのある児童生徒に対して有効な指導の形態として、特別支援学校等の教育課程に位置付けられてきた。しかし、各教科との関連や学習評価の在り方についてまとめたものは少ないのが現状である。

そこで、生活単元学習の授業に焦点を当て、令和2・3年度の研究成果である「主体的・対話的で深い学び」実現する授業づくりを基盤とした、各教科等とのつながりのある授業づくりや学習評価の在り方に関する資料を作成し提供することで、特別支援学級等での授業づくりを支援することができると考え、2か年継続の研究として取り組むこととした。

## 2 研究の内容

### (1) 生活単元学習の授業づくりに関する資料（案）の作成

学習指導要領各教科等編等を参考にして、研究協力者の助言を基に、「主体的・対話的で深い学び」を実現する生活単元学習の授業づくりガイドブック（案）」（以下、「ガイドブック（案）」という。）を作成した。

### (2) 研究員への意見聴取

研究員として、県内の小・中学校（各2校）の生活単元学習を実施している知的障がい特別支援学級担任（4名）に依頼し、「ガイドブック（案）」について意見聴取を行った。

#### ア 意見聴取の方法

「ガイドブック（案）」の「全体を通した構成や読みやすさ」と「授業づくりの過程の説明に対する分かりやすさや疑問点等」について、アンケート調査を実施した。また、アンケート結果を基に、研究員のニーズをより具体的に把握し改善案を検討するため、ウェブ会議システムを利用して、意見交換会を実施した。

#### イ 意見聴取の結果及び考察

「ガイドブック（案）」全体を通して、「適切な内容である」という意見がある一方で、「授業づくりの過程の説明等がより分かりやすくなるための工夫があるとよい」という意見があった。過程の説明だけでなく、作成のポイント等がより分かりやすくなるよう、具体例の提示や構成等の見直し等、再検討する必要があると考えた。

### (3) 資料の改善

意見聴取の結果及び考察を基に、「ガイドブック（案）」の改善を7点行った。

## 3 研究のまとめ

本年度は、「ガイドブック（案）」を作成し、研究員への意見聴取を行い、適切な内容であることが確認できた。また、具体例の提示や構成等に関する課題を基に、改善を行った。

次年度は、改善した「ガイドブック（案）」を用いた生活単元学習の授業実践を行うとともに、その取組をまとめ、特別支援学級等での授業づくりを支援する資料を作成し、提供していきたい。